

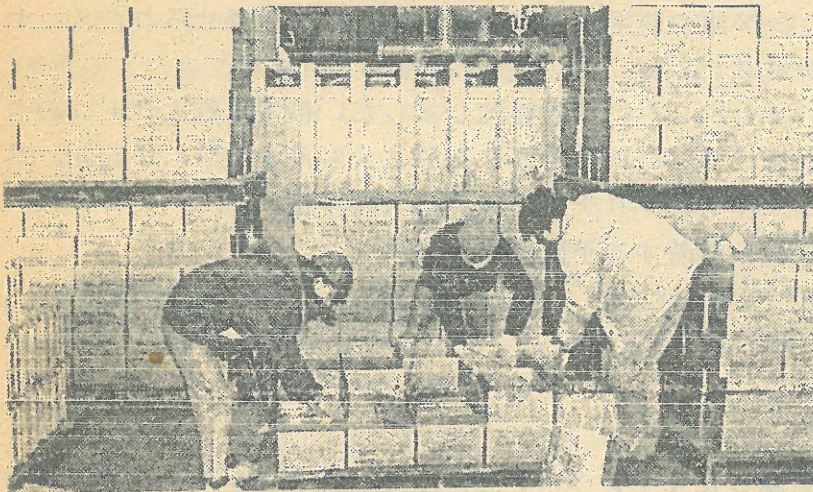
◎チェルノブイリ救援・中部では、戸別訪問による募金活動は一切しておりません。不審なカンパ要請には充分ご注意下さい。

ポレージェ

・・・チェルノブイリに思いをよせて

チェルノブイリ救援・中部 事務局から 1993.1.31 No.15

粉ミルクなど6.6トン載せて出港



凍りつくような寒さの中で粉ミルクの整理をする
ボランティアの人々
＝上伊那郡南箕輪村の伊那農協広域選果場で

借り切ったコンテナー
に満杯の救援物資を
積んだインゼナー。
イルモシュキン号は
1月21日大阪港を出港、
2月25日現地到着予定。

昨年11月から年末にかけて行ったミルクキャンペーンは、皆様の寄せられた救援金が500万円を越え、無事出港までこぎつけることができました。救援金は、51団体および567人の方からいただきました。ご支援大変ありがとうございました。

実施作業面でもこれまでとはまた異なり新たに参加された方たちにこの活動を支えていただきました。メッセージシール備え付けのポストになって下さった人達、ボランティアとして厳寒の中ミルクの梱包作業に参加して下さった人達。

また粉ミルクの保管・作業場としてりんごの選果場を無料で貸していただいた伊那農協、ミルクを名古屋港まで運んでいただいた日本通運やまた従来よりコンテナーを運んでくださっている名港海運の各企業の方達には格安な料金で多大な作業を受けていただきました。これらの運賃や保管場所に当てる費用が浮いたお金でさらに粉ミルクを買うことができました。重ねてお礼申し上げます。今回のこのキャンペーンは、「伊那谷いのちがだいじ連絡会」が担当しました。お疲れさまでした。

ミルクキャンペーン詳細

- (1) ミルクへの救援金 5,202,454円(93年1月末現在)
- (2) 救援金を寄せて下さった方 618件(51団体、567個人)
尚、この中には、三輪弘美コンサート実行委員会からいただいた220万円と伊那谷いのちがだいじ連絡会の63万円が含まれています。
- (3) 購入物資内容 粉ミルク(明治乳業)4560kg(4560個)
(1個1個にロシア語の使用説明書を入れ、皆様から寄せられたメッセージシールを貼りました。)
- (4) 現地到着予定 1月13日に無事通関しました。積載重量18トンのコンテナ一本はほぼ満杯の状態と同21日に大阪港を出港しました。2月25日にウクライナのイリチェフスク港入港予定。シトールには、遅くとも3月末には到着する予定です。

手術着1086着、 メッセージカードなども

この他に年末に同時実施したキャンペーンでメッセージカードも沢山の皆様から送っていただきました。事務局の都合で募集が大幅に遅れたために速達で送ってくださった方もいらっしゃいます。大変ご迷惑をおかけしました。お詫びします。以下年末年始の物資輸送内容です。

第15回輸送(1992.12.25 航空便 無人にて)

クリスマスカード・新年のカード1005枚、千羽鶴4000羽
医薬品(抗生物質・ホルモン剤・白血病治療薬など)146万5千円相当
(医薬品は州立子供病院アルチュフさんの依頼による。次ページ参照)

第16回輸送(1993.1.12 コンテナ1本 合計309箱 933万6千円相当)

粉ミルク4,584kg、カレンダー2,100枚、文房具類
手術着1086着、手術用シート445枚(八神製作所より寄贈)
この他に広河隆一さんたちの「チェルノブイリ子供基金」の依頼で抗生物質、ビタミン剤等15箱も一緒に送りました。

(これでこれまでに送った救援物資の総額は7,263万円となりました。)

*** 紙面の都合でご協力下さった皆様のお名前を全て掲載することができません。どうぞご了承ください。***

現地からの声 ～クリスマス・イヴに届いた子供たちへの葉～

チェルノブイリ救援・中部の皆様 こんにちは

クリスマス・イヴに、子供達の治療にとっても必要な医薬品の入った荷物を受取りました。特に有り難いのは、セファロスポリン系の抗生物質とプレドニゾロン、デキサメタゾン等のホルモン剤です。あなた方の団体から、私達は医療機器や医薬品をいただきました。あなた方はいつも私達の必要にしたがって欲しいものを送ってくれます。

私達は、すべての医薬品を病気の人々の為に使います。私達スタッフと病気の子供達は皆様の献身的な活動を評価し、この援助にたいして感謝致します。私達の協力がチェルノブイリの惨禍により被害を被った子供達にとって有効であるように願っています。

ジトーミル州立小児病院 主任医師 R. V. アルチュフ

(1993.1.21受け FAXより)

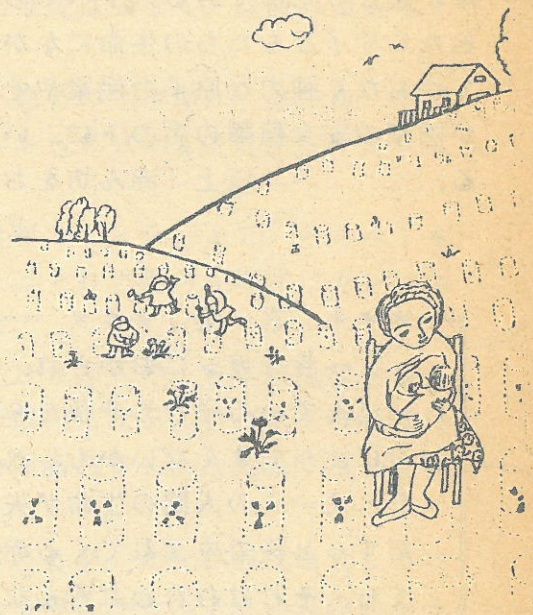
(事務局注：現地のクリスマスは1月7日でその前日に医薬品が届きました。)

チェルノブイリ救援・中部の

講演録「現地ジャーナリストが語る 5年目のチェルノブイリ」解説から

この汚染レベルは、例えて言えば、原発の低レベル放射能廃棄物のドラム缶を、1平方メートルにつき1個ずつ、見渡す限り敷き詰めたと、考えてみるといい。

こんな中で、人々は汚染した空気を吸い、汚染した食べ物を食べ、体の内外から放射線をあび続けて生活して来たのである。遺伝子は、傷つき、細胞機能は低下した。放射能の影響は、子供に顕著である。それは放射能が、盛んに分裂しつつある細胞の遺伝子を破壊し、突然変異を起こさせるからである。1個体について言えば、造血組織や生殖腺、消化管上皮などがターゲットである。ネチポレンコさん、アルチュフさんの話には、これらに関する様々な病気の多発が述べられている。



(事務局注：この講演録全文は1冊350円で販売しています。)

あなたが知らされなかったこと

(アメリカのスリーマイル原発の) 事故後の数カ月間にペンシルベニア州で普通予想される数値を2, 300人上回る過剰な乳児死亡があったことを示す非常にしっかりした証拠があると私は結論した。そしてこのことは、ガンや発育上の異常や遺伝病がスリーマイル島事故のために、それと分かるほど増えることはなからうという、企業やケメニー委員会の主張と対立するものであった。—略—

そこには、主なネットワークのテレビ局がすべて来ていた。記者会見の終了後すぐに、そのうちのいくつかの記者が、私に別々にインタビューした。しかし、その夕方にも、翌日にも、ピッツバーグの地方ニュースも、全国版テレビニュースも私のショッキングな研究結果には一言も触れなかった。二、三のラジオが大変短い地方ニュースで触れたが、ピッツバーグやフィラデルフィアのどの新聞も記者会見のことには一言も触れなかった。

まるで鉄のカーテンがハリスバーグ地域を囲い、低レベル放射性降下物が全く予想外の大変な影響を及ぼすと警告しているニュースから、アメリカの他の地域の人々や世界中の人々を隔離したようなものであった。だが原子力産業が軍隊も、原子力に入れこんでいる連邦政府や州政府も、人々が知ることを望まなかった。原子力と結びついた社会に起こるだろうと多くの人々がおそれていたことが、実際に起こったのである。すべての市民的権利のうちで最も重要なもの、すなわち私たちや子どもたちの生命にかかわる問題について出版を通じて知る自由は、とてつもなく強力な原子力産業やそれを生み育てて来た軍事体制によって、すべてが国家の安全保障の名の下に、いつの間にかひそかに破壊されて来ているのである。

以上「赤ん坊をおそう放射能」(原題: SECRET FALLOUT)

E. J. スターングラス著(新泉社刊)より抜粋

*** 言葉 ***

・・・骨をガンにおかされ、その血液は白血病を病み、肺には毒物を吸い込んでいる子どもや孫たち、その数は統計的にみれば普通の病を患う者に比べてすくないかもしれない。しかしこれは普通の病ではないのだ。たとえ一人の人間の生命が失われようとも、あるいは、われわれが死んだずっと後で生まれてくる赤ん坊のうちのたとえ一人が奇形になるとしても、それはわれわれ皆んなの関心事でなければならない。われわれの子や孫を単なる統計上の対象とみなし、無関心でいることはできない。

—— ジョン・F・ケネディ(上記書籍より引用)

アメリカの検閲年間トップ10より (ザ・ヴァレー・アドポケット誌より抜粋)

1992.3.12

第1位: アメリカCBSとNBCが放送しなかった映像

1990年の湾岸戦争でイラクに対する空爆が最も激しい頃、NBCとCBSの首脳たちは映像の一部の放映を認めなかった。エミー賞授賞者のマリアヌ・デリオとジョン・アルパートが手にいれた、空爆で荒廃したイラクの地方都市と苦悩する家族らの映像は、市民への被害が最小のものであったとする政府の要請と相反するものであった。NBC会長のマイケル・ガートナーは放映を認めず、CBSもまた放映を認めていた担当役員のトム・ベタッグを解雇し、CBSイブニングニュースでの放映直前にその映像は削除された。(アメリカ)

90年、ガン患者81万人に――5年前より6割増加 (日本)

全国でガンの治療を受けている患者は1990年81万人で、5年前より6割も増加した、と大阪成人病センター調査部の花井彩主幹らが疫学調査から推定し、30人大阪市で開かれた日本癌(がん)学会で発表した。ガンの統計は死亡者数がほとんど。生存している人数に着目した科学的推定は少なく、医療政策を考える際に参考となりそうだ。

花井主幹らは、大阪府のガン登録から分かった患者の生存率と、厚生省「地域がん登録」研究班のガン発生統計を基に、65年から89年までに全国でガンにかかった人の数を算定した。

この結果、過去25年間にガンになった人は全部で589万人で、うち418万人は85年以前の20年間に、残り171万人はそれ以後の5年間にガンになっていた。

ガン経験者で90年1月1日に生存中の人は180万人で、5年以上経過し、ほぼ治癒した長期生存者は99万人、残りは5年以内にガンになって医療を受けている患者だった。さらに85年1月1日現在の同様のデータと比較すると長期生存者は3割、ガン患者は6割、それぞれ増加していた。

花井主幹は「ガン医療の成果は着実に上がっているが、ガン脅威は増大している。特に高齢者のガン経験者が増えており、これらの人たちの生活の質の面から、リハビリや介護、治療方法などの問題を考えていく必要がある」と指摘している。

(日本経済新聞1992.9.30夕刊より)

*** ちょっとひといき *** 【文芸欄】

イマジン (IMAGINE)

くめみやこ作詞

ジョン・レノンIMAGINEより

空には値札がない
風にはレールがない
波には終わりがない
空には継ぎ目がない

こんなかんたんなことが
見えなくなってる！

夕焼けは持ち帰れない
雨は止められない
星は集められない
心は曲げられない

こんなにかんたんなことが
見えなくなってる！

心をのぞきこんだら
ダイヤモンドさ
誰もが
息を吹きかけて
音をたててみかけば
月にも星だって
負けずに輝く

あなたを殺したくない
あなたに殺されたくない
銃を持ちたくない
あなたの手をとりながら

私の弾丸は言葉
私の銃は音楽
私の爆弾は花束
私の武器はたましい

*** アメリカのNGO紹介 ***

「草の根のための委員会 “GETTING THE WORD OUT”」

救援・中部のメンバーでもあるジュディ・カーマイケルさんが議長となっているこの委員会は、全米22の市民団体代表者で構成されています。扱う問題も女性と子供に関わる問題を中心として多岐に渡っており、発行されているニュースレターの話も核廃棄物、ブラジルの子供迫害反対、軍縮、核実験反対など多彩。

ジュディさんは、昨年6月ブラジルのリオ市でアースサミットと同時に開かれたNGOのグローバルフォーラムで発言を許された数少ない人の一人です。



ニュースレターのマークより

事務局開設から11ヶ月を経て

～市民団体としての健全性のためにもぜひ入会を～

昨年3月に事務局が開設されてからまもなく1年になろうとしています。以来専従職員の山盛さんの奮闘で医師研修や国連プロジェクト、ワクチンプロジェクトなど数々の活動をより実のある内容にすることができました。これまでに233名の方に事務局維持会員となっただき1,927,543円をこれまで(1/12現在)にお寄せいただいています。

私達には運営費が不足しています。引き続きこの救援活動を継続していくため、また国の補助金や企業からの寄付だけに頼らない、健全な市民団体として保っていくためにもどうぞ維持会員入会をお願いいたします。また皆様から寄せられたお金がどのように使われたかについても詳細に報告させていただき最大限の公開性を維持していきます。

*** 出費内容のご報告 *** (昨年3月～12月分)

家賃(ガス、水道、共益費)	320,566円
専従職員給料	449,160円
電気代	8,437円
備品・消耗費	49,074円
郵送料	127,703円
雑費	151,802円
合計	1,106,742円

事務局維持会員入会のお願い

チェルノブイリ救援・中部では、膨大な事務作業をこなすために昨年3月に事務局を開設しました。長期の救援を行うために皆様の維持会員を募っています。今年もさらに救援活動を続けるため入会をお願いします。

◎維持会員入会費 1,000円/月

(一年分まとめた場合 10,000円/年)

郵便振替口座：名古屋8-108610

(* 通信欄に必ず維持会員申込みと記入して下さい)

チェルノブイリ救援・中部 《会計報告》 (1992・9・1-1993・1・31)

収 入	金 額	支 出	金 額
前期繰越	10,166,549	放射能測定器	2,028,915
救援寄付金	711,710	超音波診断など医療機器	8,997,477
ワクチンキャンペーン	5,148,202	医薬品代	6,553,153
ミルクキャンペーン	5,202,454	粉ミルク代	4,864,279
ボランティア預金交付金	16,400,000	テープレコーダ、テープ	59,160
コンサート・チケット代	1,050,000	コンサート・チケット代	1,050,000
コンサート実行委カンパ等	2,348,546	救援物資輸送費、通関料	735,526
移住基金	100,000	ウクライナ訪問渡航費	2,119,128
「救援・中部」運営費カンパ	719,907	事務所運営費(含印刷代)	1,343,258
書籍絵葉書テレカ等売上	811,832	電話代、郵送料	586,755
絵画貸出料	54,648	書籍購入、パネル借用料	78,700
講演・映画会・バザーカンパ	320,961	現地民芸品・資料購入費	200,000
(注)キャンペーン期間中の寄付金は特に おことわりが無い限り当該キャンペ ーンへの寄付としました。		出張旅費	111,349
		FAX設置費	58,504
		雑費	13,434
		小 計	28,799,638
		次期繰り越し	14,235,171
合 計	43,034,809	合 計	43,034,809

＊ ＊ お知らせとお願い ＊ ＊

- ・ 救援金をお寄せいただいた方には全て事務局より領収書を送らせていただいております。振込用紙に住所氏名等を明記ください、もし領収書不用の方は振込用紙の通信欄にその旨お書きくだされば幸いです。
- ・ 被災地の家族や子供たちから届いた沢山の手紙や絵が「絵はがき集」になりました。1セット5枚で300円です。救援・中部まで直接お申込みください。
- ・ 現地からチェルノブイリ特集英語版「CHERNOBYL HOSTAGES No.3」新着！500円
- ・ チェルノブイリ救援・中部のテレフォンカード 一枚1000円50度数。
- ・ 現地ジャーナリストのネチポレンコさんおよび小児科医師ライサさんの来日講演録全文。専門家の解説つき 一部350円。
- ・ 「とどけウクライナへ 私たちの救援日誌」(板東弘美著 八月書館) 定価1648円 書店または救援・中部までご注文ください。

チェルノブイリ救援・中部 (郵便振替口座 名古屋8-108610)

事務局 〒466 名古屋市昭和区楽園町137 楽園アパート1-10

TEL.FAX:052-836-1073 (月、水、金曜日10:00-15:00)

代表:長谷川三知子

(問い合わせはなるべく郵便で、できれば切手を添えた封筒を同封してください)